

野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備モデル事業

平成21年度第2回連絡会議
平成22年3月8日
四国森林管理局

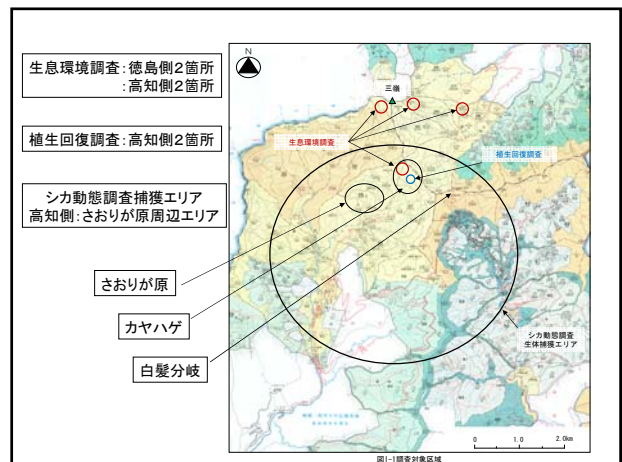
I 平成21年度委託調査の概要

- ・「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等調査」
- 委託先: (株)西日本科学技術研究所
- 内容: 1 生息環境調査(樹木・ササなどの被害の状況)
2 植生回復調査(防護柵設置箇所における回復状況)
3 シカ動態調査(行動圏利用の実態)

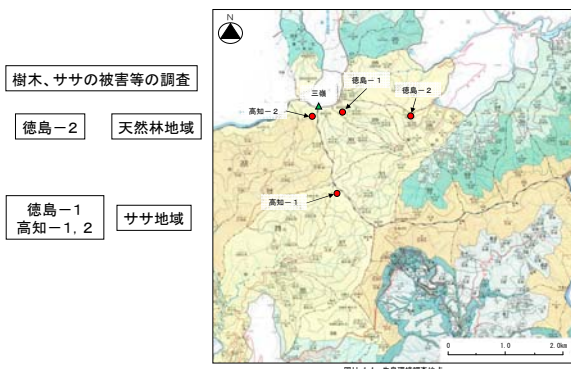
調査区域



三嶺山頂(白髪分岐から)



生息環境調査



生息環境調査(高知県側)



高知-1 カヤハゲ



高知-2 三嶺西斜面

ミヤマクマザサ(アブラムシ)

生息環境調査(徳島県側)



徳島-1 三嶺南東斜面



徳島-2 針葉樹天然林

ウラジオモミ(防護柵設置箇所)

高知-2(山嶺西斜面)の状況

ミヤマクマザサの枯れ



アブラムシの吸汁により葉が枯れたササ



ハチツバに広がるアブラムシの被害

ササの地下茎は健全

アブラムシの同定

・ササコナフキツノアブラムシ



ササの葉の裏に密着しているササコナフキツノアブラムシ (写っているのは後足)

高知大農学部 荒川 良教授
高知昆虫研究会 別府 隆氏

ササコナフキツノアブラムシ

- ・本種の生態についての詳しいことはほとんど不明。
- ・有翅成虫以外は、自力移動はほとんどできないが、有翅成虫は風によって運ばれかなりの距離を移動する。
- ・吸汁しているアブラムシが、動物などに付着して広がることは少ない。
- ・アリは、アブラムシを環境条件の良い所(新しい葉)へ引っ越しさせることがある。
- ・雨などの衝撃によって葉から簡単に落ちる。
- ・高標高帯にあるササ原では、寒さや雪のため越冬はできない。
- ・本種の増加は、環境条件(高温、乾燥、エサ)が整っていることと、天敵が少ないことが要因。本種の天敵としてゴイシジミが知られているが、この種自体が少ないため、天敵となり得ない。それよりもテントウムシやヒラタアブが天敵と考えるのが妥当。
- ・本種による被害としては、葉の基部を吸汁するため、葉の先端部が枯れる。主に軟らかい若い葉を中心に吸汁する。また、アブラムシが排出する甘露(糞尿)によりスズ病などが発生する。
- ・アブラムシによって壊滅的にササが枯れることはないだろう。

高知大荒川教授へのヒアリングによる

徳島県側の剣山系においても確認(2008年)

シカ動態調査

- ・さおりが原において誘因エサ、自動撮影カメラにより確認し、メス成獣(No1)、オス幼獣(No.2)の2頭を生体捕獲し、行動追跡用のGPSテレメトリー首輪などを装着し、放獣した。

No.1	メス	成獣	体重	32.5kg	全長	133.0cm	体高	68.0cm
No.2	オス	幼獣	体重	22.0kg	全長	108.0cm	体高	63.0cm

GPSの測位間隔 1時間毎24時間

捕獲個体



写真10 GPSテレメトリー首輪の装着後 (捕獲個体No. 1)



写真15 GPSテレメトリー首輪の装着後 (捕獲個体No. 2)

